

経営比較分析表（令和元年度決算）

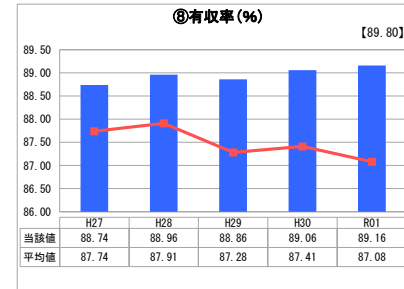
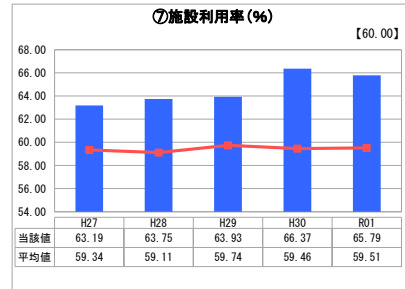
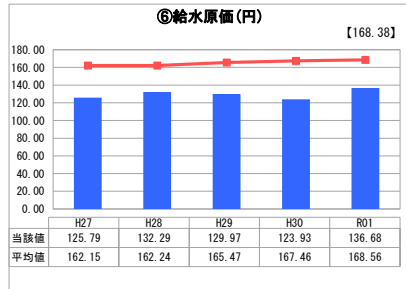
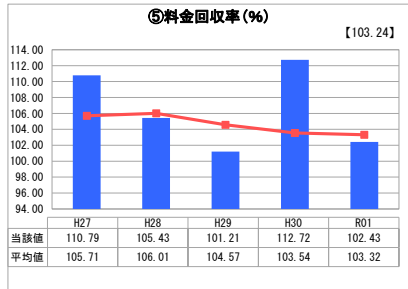
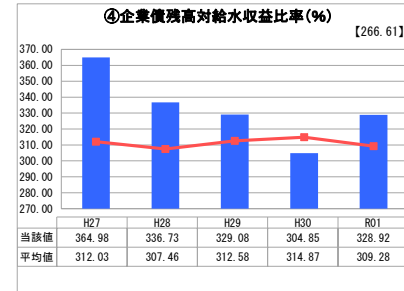
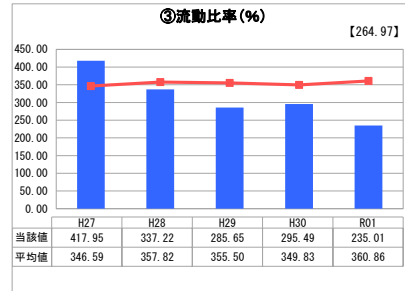
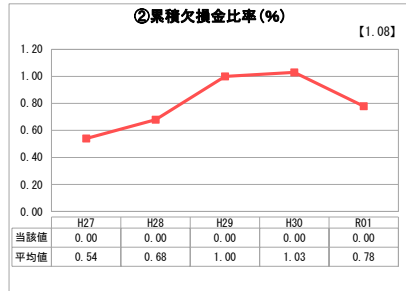
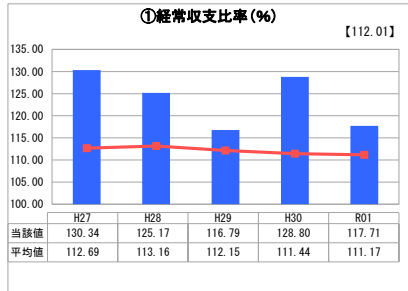
岡山県 総社市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	73.94	95.52	2,750	

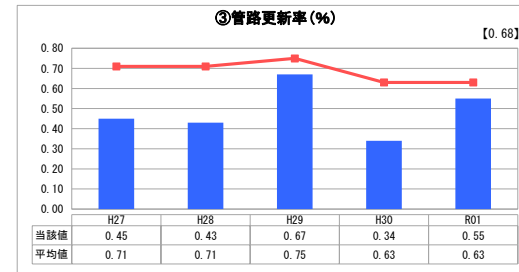
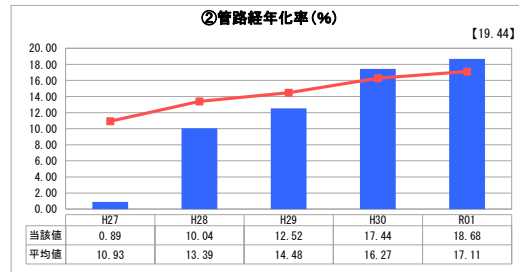
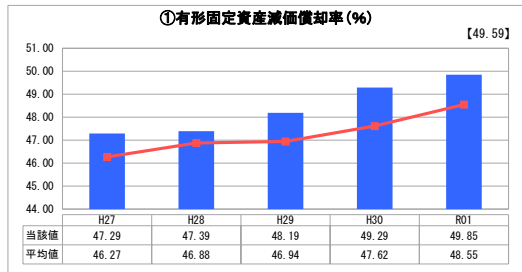
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
69,338	211.90	327.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
66,249	113.85	581.90

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成29年度から上水道と簡易水道を統合しており、「②累積欠損比率」や「⑤料金回収率」などの一部指標において類似団体や全国の平均より低い結果となっていますが、現在のところ経営の健全性や効率性は確保されているものと見えます。
 「④企業債残高対給水収益比率」は、平成30年度に類似団体平均値より抑制できましたが令和元年度に再び平均値を上回ってしまったため、引き続き企業債残高の抑制に努めていく必要があります。
 「⑥給水原価」については、全国平均及び類似団体の平均値より低くなっており、適切な数値になっていると考えられます。
 「⑦施設利用率」については、全国平均及び類似団体の平均値を上回っており、適切な施設規模であると見えます。
 「⑧有収率」については、類似団体と比較して有収率が高めになっていますが、今後も有収率が下がらないよう、漏水対策等を継続していく必要があります。

2. 老朽化の状況について

「②管路経年化率」が年々高くなっているため、より積極的な老朽管路更新に取り組んでいく必要があります。
 また、管路以外の老朽化も進んでいることから、管路以外の有形固定資産の更新についても計画的に取り組んでいく必要があります。

全体総括

今後、必要な更新投資を行うと、徐々に経営状況が悪化していくと予測されます。
 現在の水道システムが給水区域を順次拡張していったために非効率な水道システムとなっていることから、水道施設の統廃合を行い、更新投資の抑制に努めていく必要があります。
 また、従来にはなかった耐震性能の確保を求められるなど、投資のあり方も変化していることから、必要に応じて水道料金の見直しを検討する必要があります。